

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長  
(福岡県病虫害防除所)

令和6年度病虫害発生予察注意報第6号について

このことについて、病虫害発生予察注意報第6号を発表したので送付します。

令和6年9月19日付けでハスモンヨトウの注意報第5号を発出したところですが、大豆の9月5半旬調査において多発ほ場が見られています。今後も本虫の発生に好適な気象条件が続くと予想されるため、大豆や野菜のほ場での発生状況に注意し、防除の徹底をお願いします。

注意報第6号

1 対象作物名：大豆・野菜類

2 病虫害名：ハスモンヨトウ

3 発生予想：多

4 予報の根拠

- (1) 大豆の9月5半旬調査の結果では、ハスモンヨトウの10株当たり払い落とし幼虫数は97.9頭(平成6.4頭 前年6.7頭)で、過去10か年で最も多かった(図1)。発生ほ場率83.3%(平成61.9% 前年91.7%)であった(図2)。一部のほ場では、10株当たり払い落とし幼虫数600頭を超えるほ場が見られており、9月2半旬以降急増している。
- (2) ハスモンヨトウによる白変葉(食害葉)の発生株率は48.3%(平成5.0% 前年34.3%)、発生ほ場率は100%(平成43.1% 前年83.3%)で、依然として多い(図3、4)。
- (3) 9月3半旬以降、ハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺数が増加傾向である。特に筑後市では、9月3半旬から4半旬にかけて平成より非常に多くなっている(図5)。
- (4) イチゴ、ナスの9月5半旬調査では、ハスモンヨトウによる食害が確認されている。
- (5) 福岡管区气象台9月26日付発表の1か月予報では、向こう1か月の気温(9/28~10/27)は高く、期間の前半はかなり高くなると予想されている。

5 防除上注意すべき事項

- (1) ほ場周辺の雑草は増殖の場となるので、除草を徹底する。
- (2) 中齢幼虫になると薬剤の効果が低下するため、早期発見に努め、若齢幼虫のうちに薬剤防除を実施する。
- (3) フェロモントラップを活用した防除適期の目安は、誘殺ピークから10日目頃であるが、地域によって誘殺消長に差があるため、ほ場でのハスモンヨトウや白変葉、食害株等の発生状況を確認し、薬剤防除を実施する。
- (4) 今後の発生状況については、病虫害防除所のホームページを参照する。  
<<https://www.jppn.ne.jp/fukuoka/doukou/hassei.html>>
- (5) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布する。なお、

一部の薬剤で感受性の低下が懸念されているため、薬剤の選定には十分注意する。  
 (6) 施設栽培の場合は、ハウスの開口部に防虫ネットを張り、成虫の飛び込みを防止する。

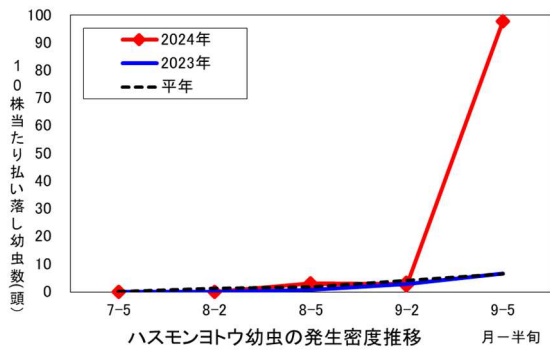


図1 大豆におけるハスモンヨトウ幼虫発生密度の推移

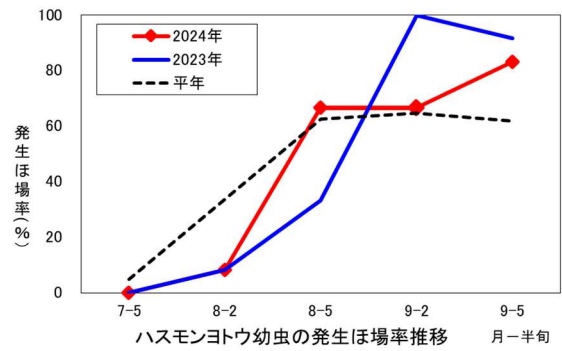


図2 大豆におけるハスモンヨトウ幼虫発生ほ場率の推移

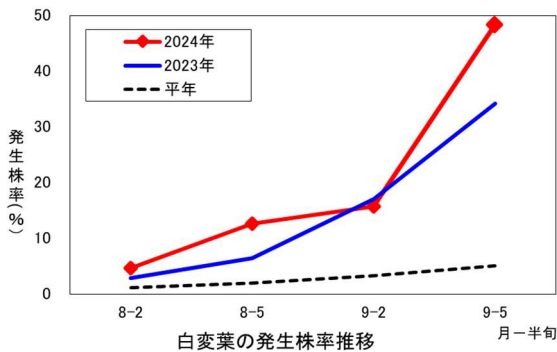


図3 大豆における白変葉の発生株率の推移

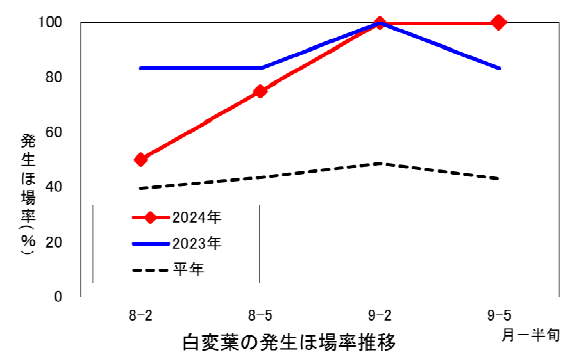


図4 大豆における白変葉の発生ほ場率の推移

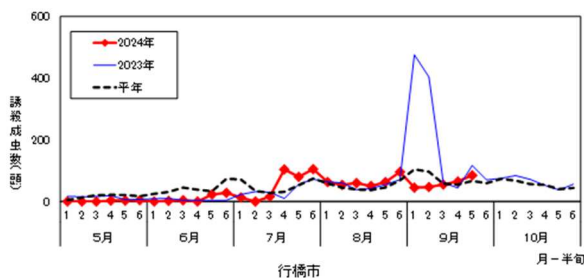
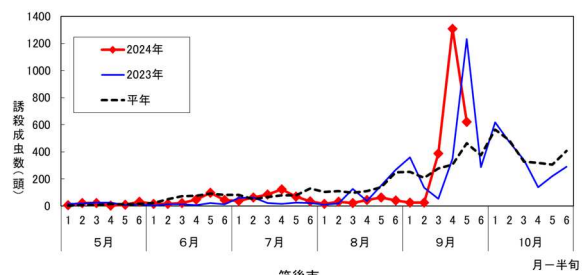
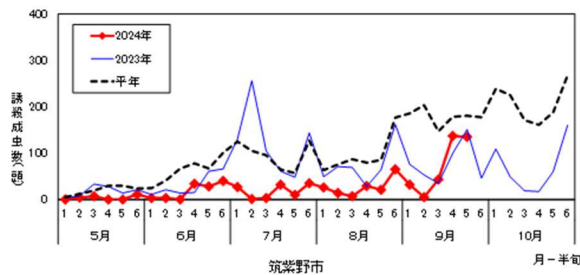


図5 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウの誘殺成虫数の推移

病害虫防除所のホームページでは、各種病害虫の発生状況を随時更新しています。発生状況の把握や防除の参考にご活用下さい。

○福岡県病害虫防除所のホームページへのアクセス

URL: <https://www.jppn.ne.jp/fukuoka/> または右QRコード

○X (旧 Twitter) で定期情報や警報等発出のお知らせを始めました。

X (旧 Twitter) の本アカウント (福岡県農作物病害虫情報) へのアクセス

URL: [https://x.com/PPDPO\\_Fukuoka](https://x.com/PPDPO_Fukuoka) または右QRコード

